

press release

まもなく開幕！



公式インスタグラム

KAWASE HASUI

Travel and nostalgic landscape

旅情詩人と呼ばれた木版画家



川俣 巴水

旅と
郷愁の
風景

2023
4/11 会期中無休 tue → 6/11 sun

【開館時間】9:00～17:00(金曜日は20:00まで開館)

※入場は開館の30分前まで ※4月11日は10:00開場

【入館料】一般1,400円／高・大学生1,000円／小・中学生700円

◎会期中、本展チケットのご提示(半券可)により、100円で縮景園にご入園いただけます。

※身長120cm以上の団体は当日料金2,200円(9名) ※学生優待で個人で入場の際は、学生証のご提示をお願いいたします。

※身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳及び肢体障害者手帳の所持者と介護者(1名まで)の当日料金は半額です。手帳のご提示は必須です。

※貸衣装は、広島県立美術館、セブンネット(セブンコード:099-294)、広島市・呉市内の主なプレイガイド、
調剤・調材店、ゆめタウン広島、中国新聞社販賣部、中国新聞各販売所(呉・青木)などで販売しています。

【主催】広島県立美術館、イズミタケ、中国新聞社、広島テレビ

【後援】中国放送、広島ホームテレビ、テレビ新広島、エフエムよこやま、尾道エフエム放送

【特別協力】渡邊木版美術館 【資料提供】大田区立郷土博物館 【企画協力】スタッフ・イースト

【協賛】大田鋼管、広島県信用組合、一般財団法人ケンシン地域振興財団

新型コロナウイルス感染症大防止などの御事情により開館情報等に変更が生じる場合がございます。
最新情報は広島県立美術館(電話・HP・SNS)まで <https://www.hpam.jp/>

 **広島県立美術館**
Hiroshima Prefectural Art Museum
〒730-0014 広島市中区上郷町2-22 tel.082-223-6246 fax.082-223-1444

ワンコイン
100円
縮景園

【開催趣旨】

大正から昭和にかけて活躍した版画家・川瀬巴水(1883-1957)。急速な近代化により街や風景がめまぐるしく変貌していく時代、自らの足で旅し、生涯にわたって各地で見つけた風景を描き続けた彼は「旅情詩人」と称されました。

季節や天候、時の移ろいを映し出す表情豊かな作品世界は、今なお国内外で愛されています。巴水の制作を支えたのが、版元の渡邊庄三郎でした。二人は、当時衰退しつつあった浮世絵のシステム、すなわち職人との協働や高度な伝統技術を使いながら、新しい色彩感覚や表現を取り入れて、日本国内における木版画的「芸術作品」制作に励みました。本展は、初期から晩年までの巴水作品の中から、代表的なシリーズ(連作)を中心に約180点で構成し、巴水の画業とその作品の幅広い魅力を紹介するものです。

渡邊版画店主人で新版画運動の提唱者である渡邊庄三郎と出会い、新版画の作者としての道を歩き始めた巴水。最初期の作品である本作からは、鋸の刃のようなギザギザとした輪郭線の活用や、墨のぼかして陰影をつけ立体感や遠近感の工夫を行うなど、従来の木版画にはない新様式の開拓に取り組んでいたことが感じられます。この作品を含む「塩原三部作」の売れ行きが好調だったこともあり、庄三郎は巴水を風景版画家として高く評価し、その後も巴水とともに風景版画に力を入れていくのですが、まさにその出発点となる作品です。

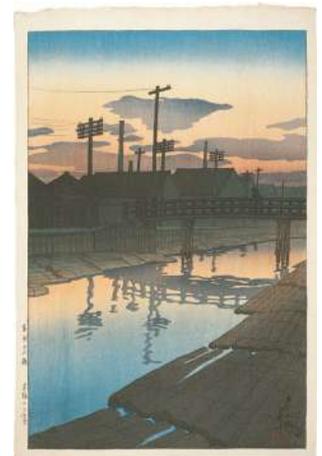


「塩原おかね道」『塩原三部作』より 1918(大正7)年秋

【展覧会の構成】

第1章 版画家・巴水、ふるさと東京と旅みやげ(関東大震災前)

渡邊庄三郎と新版画に取り組むようになった初期から、評価の安定する関東大震災前までの作品を紹介します。巴水初期の版画作品は、ヨーロッパの版画やイラストなどの影響も受けたと考えられる、鋸の刃のようにギザギザした輪郭線や抑揚のきいた線が特徴的です。陰影を強調して、立体感や奥行きを感じさせる表現が効果的な作品など、それまでの日本の木版画に無かった、いわば実験的な要素の強い作品が目を惹きます。

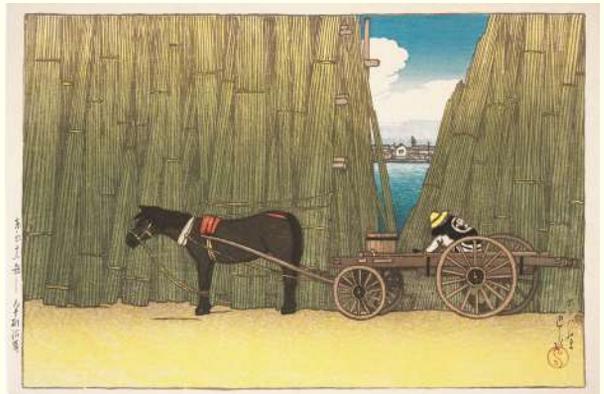


《木場の夕暮》東京十二題 1920(大正9)年秋

こま形河岸

駒形河岸は現在では外国からの観光客で賑わう東京浅草の浅草寺のすぐそば、隅田川の西側にある河岸です。浅草寺のご本尊が引き上げられた場所に建立された駒形堂があることで知られています。付近は材木町となっており、竹木商が多かったことから竹町とも呼ばれていたそうです。この作品では竹木商の竹置き場の前に停車する荷馬車が描かれています。荷車には仕事場の半纏を着たままうたたねしている人物が描かれていますが、現在でもこうした川土手を歩くと、タクシーの運転手さんや営業マンが車の中で休んでいるのを見かけます。時代が移って「変わった風景」と「変わらない日常」とが同居した画面に、思わず微笑んでしまいます。

旅行好きでもあった巴水はこの頃、旅行先での写生をもとに「旅みやげ」のシリーズを制作していましたが、ほぼ並行して「東京十二題」にも取り組んでいました。東京生まれの巴水は「見慣れ過ぎたせいか、いつでも画けるという油断か、どうも私は東京を見る感じが鈍いようであります。が併し一度こゝぞと思ひますと、生まれた時から住んで居る所だけに、何か自分のものと云ふ様な不思議な力が出て、思ふままに写生の出来るのが常です。」と、東京を描くことに対する自信をのぞかせています。



《こま形河岸》東京十二題 1919(大正8)年

第2章 「旅情詩人」巴水、名声の確立とスランプ(関東大震災後～戦中)

渡邊庄三郎との協働により新版画の制作も軌道に乗り、順調に創作活動を進めていた巴水を関東大震災が襲いました。多くの人々に甚大な被害を与えた関東大震災ですが、巴水も、描き蓄えたスケッチや版画など、それまでの成果の全てを失ってしまいました。渡邊庄三郎も店舗をはじめとして、販売用の版画や保管していた版木など多くのものを焼失してしまいました。そんな中、庄三郎は、茫然自失の巴水に旅行に出かけるよう勧め、その勧めに従った巴水は、結果として生涯最長となる取材旅行に出かけます。庄三郎と巴水、二人の信頼関係が感じられるエピソードです。この取材をもとに制作された作品は震災前に比べ、写実性が高まり、画面全体も明るい表現へと変わっていきました。



《新大橋》東京二十景 1926(大正15)年

press release

星月夜(宮嶋)

巴水が宮島を描いた作品の中でも早い時期の作品です。巴水は全国を旅しましたが、なかでも宮島はお気に入りだったらしく、このほかにも、晴天の雪(宮嶋)》、《おぼろ夜(宮嶋)》、《雪の宮島》など、様々な季節、様々な時間帯を描いていて、東京以外では最も多くの作品を残しています。



《星月夜(宮嶋)》旅みやげ第三集 1928(昭和3)年

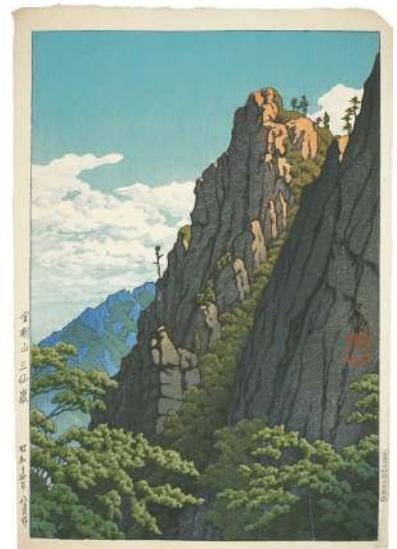
第3章 巴水、新境地を開拓、円熟期へ(戦中～戦後)

作品のマンネリ化に悩むようになっていた巴水は、画家仲間の誘いに応じて朝鮮半島への旅に出かけました。そこで初めて目にした、日本では見ることのなかった広々とした光景や風俗の新鮮さに魅了され、その経験が「朝鮮八景」や「続朝鮮風景」のシリーズを生み出します。これらの作品は、震災後に掴んだ精緻な表現に、初期の作品に見られたような大胆な構図を生かした作風がよみがえり、新たな表現を開拓していきます。

金剛山三仙巖

1936(昭和11)年から1939(昭和14)年ころまで巴水はスランプに陥ったと言います。戦争に向かう時代ですから世の中の暗い雰囲気なども影響していたかもしれません。そんな巴水の転機となったのは朝鮮の鉄道局から招かれた朝鮮旅行でした。もとより旅行好きの巴水ですから、気分転換にもなったのですが、そこで目にした広大な風景や民族衣装、色とりどりの建物など、日本とは異なる様々なものは、巴水にとって大きな刺激になったようです。

この旅行以降の巴水は、初期の作品のような大胆な構図に、スランプに陥る直前のような完成度の高い作風、そしてさわやかな色調が調和した作品を描くようになったと評価されていて、まさに円熟期と呼ぶにふさわしい作品を残していきます。



《金剛山三仙巖》朝鮮八景 1939(昭和14)年8月

【媒体掲載用の画像提供について】

※いかなる場合も本プレスリリースからの転用は御遠慮ください。

※都合により出品作品が異なる場合がございます。御了承ください。

※画像については提供が可能です。画像掲載の際には、当館までお問い合わせください。

※画像掲載の際には、画像とテキストが掲載されたレイアウト原稿を事前に当館まで提出いただき、1週間程度お時間を頂戴いたします。

【関連イベント】

■記念講演会（共催：広島県立美術館友の会）

テーマ：「巴水版画の魅力」

講師：岩切信一郎（本展監修、美術史家・國學院大學大学院講師）

日時：4月16日（日）13:30～15:00（開場13:00）

※聴講無料、要事前申込（当館082-221-6246）

■新版画の摺りの実演（共催：広島県立美術館友の会）

渡邊木版美術画舗の御協力により、本職の摺師による新版画制作における摺りの実演を御覧いただけます。

摺師：渡辺英次 解説：渡邊章一郎

日時：4月23日（日）13:30～15:00

※参加費無料

■学芸員によるギャラリートーク（ワイヤレスガイド使用）

日時：4月14日（金）、5月12日（金）、5月26日（金）、6月9日（金）

各日 11:00～

場所：3階展示室

※要入館券、要事前申込（当館082-221-6246）

■学芸員によるインスタライブ

当館公式Instagramからギャラリートークを配信

日時：4月18日（火）、5月9日（火） 各日 17:00～



公式Instagram

【ワンコイン縮景園（縮景園連携）】

本展入館券の御提示により、100円で縮景園に御入園いただけます。

【開催概要】

メインタイトル：川瀬巴水 旅と郷愁の風景

英語名：KAWASE HASUI: Travel and nostalgic landscape

会期：令和5年4月11日(火)～6月11日(日) 会期中無休

開館時間：9:00～17:00(金曜日は20:00まで開館)

※入場は閉館の30分前まで ※4月11日は10:00開場

料金：一般 1,400円 高・大学生1,000円 小・中学生700円

※前売り・20名以上の団体は当日料金より200円引き

※前売券は広島県立美術館、広島市・呉市内の主なプレイガイド、画材店・画廊、ゆめタウン広島などで販売しています。

※学生券を購入・入場の際は学生証の提示をお願いします。

※身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳及び戦傷病者手帳の所持者と介助者(1名まで)の当日料金は半額です。手帳を提示してください。

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、開館情報に変更の生じる場合があります。最新情報は広島県立美術館(電話・HP・SNS)まで

開催クレジット

主催：広島県立美術館／イズミテクノ／中国新聞社／広島テレビ

後援：中国放送／広島ホームテレビ／テレビ新広島／エフエムふくやま／尾道エフエム放送

特別協力：渡邊木版美術画舗

資料提供：大田区立郷土博物館

企画協力：ステップ・イースト

協賛：大田鋼管／広島県信用組合／一般財団法人ケンシン地域振興財団

問い合わせ先：広島県立美術館

〒730-0014 広島市中区上幟町2-22

TEL.082-221-6246 FAX.082-223-1444

E-mail：iroeuma2@gmail.com

担当：学芸課 角田 新

広報担当：総務課 一色 直香、弘津 かおる

来館の皆さまへ

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、以下の対策を行っています。御理解と御協力をお願いします。

- ・発熱等の症状がある場合は、軽症であっても入館を御遠慮いただくようお願いいたします。
- ・手指のアルコール消毒、咳エチケットの徹底をお願いします。
- ・人と人とが触れ合わない程度の間隔を確保するようお願いします。来館者が多い場合は、入場制限を行うことがあります。

※なお、マスクの着用は個人の判断が基本となります。

このため、一部のスタッフはマスクを着用することに御理解ください。

